

カメラが趣味になりました

東海職業能力開発大学校の下畑さんから紹介を受けました、千葉県立船橋高等技術専門学校に勤務しております志村と申します。下畑さんは大学の研究室の後輩で、研究やら飲み会やらで苦楽を共にしました。

ここでは、私が最近ハマり始めたデジタル一眼レフカメラについて話してみたいと思います。

デジタル一眼レフを購入するまではコンパクトデジカメを使っていて、撮影した写真は専らパソコンのディスプレイで鑑賞していました。あるとき、撮った写真を友人に渡すためにプリントしたら、「おや？ 思ったより画質が良くないな」。いろいろ調べた結果、一般的にデジタル一眼レフ用のセンササイズはコンパクトデジカメのそれより大きく、センサの電気的特性やレンズの光学特性を向上させやすいとのこと。というわけで、当時は自身の結婚式を直前に控えていたこともあり、「自由にお金を使えるのもこれが最後だ！」と、思いきって購入しました。

高画質だけを期待して買ったデジタル一眼レフカメラ。甘くみていました。奥が深いです。今のカメラは撮影者が構図を決めれば、オート機能によって被写体にピントを合わせ、シャッタースピードと絞り等をすべて決定してくれます。あとはシャッターボタンを押せばよいです（もちろんデジタル一眼レフでもできます）。しかし撮影者が撮影意図を決め、イメージどおりに撮りたいときはそうはいきません。被写体が風景、人物、動物、または光の向き、明るさ、色によっても撮り方が変わってきます。さらに決定的瞬間を撮るときは、これらの撮影条件を瞬間的に判断してシャッターを切らなくてはならず、判断能力と経験が必要です。うまくいくことはそうそうありませんが、そんな試行錯誤をすることにどっぷりハマってしまいました。また、画質ではなく人の感性に響く「いい写真だねー」と思わせる写真を撮ることは、左脳人間の私には手強い課題です。しかし、撮影の幅を広げることができる一眼レフカメラは非常におもしろいです。

一眼レフカメラはレンズ交換も醍醐味です。しばらく一眼レフカメラを使っていると、一本のレンズだと物足りなくなってしまう（私だけ？）。私はいわゆる標準レンズというものを持っていたのですが、世の中にはほかに広角、望遠、マクロレンズなどさまざまなレンズ



があり、それらの価格はカメラ本体と同等であったり、中には数倍するものもあります。最初は「こんな高額なものを買う人がいるのか？」と疑っていました。最近では、より優れた光学特性を有したレンズやら三脚やらカメラ関連製品に高額投資をすることに躊躇がなくなり、金銭感覚が麻痺していく自分が恐ろしく感じています。皆さんも気をつけましょう！

カメラをやっているとと思わぬ出会いがあります。旅先等で撮影しているとカメラ・写真愛好家の方々から話し掛けられることが多く、アドバイスや撮影ポイントの情報をいただいたり、いろいろコミュニケーションが取れます。また、諸先輩方には元カメラ・写真愛好家が意外と多く、職場でもカメラがきっかけでいろいろと話をする機会が増えました。その話の中で、オート機能が一切存在しないフルメカニカルカメラを紹介され、カメラの精密加工技術やメカ機構という新たな興味を持つことができました。その影響で今では35mmフィルムカメラや中判フィルムカメラでも撮影するようになり、被写体やその日の気分に応じて使い分け、それぞれの味わいを楽しんでいます。

さて、今回のリレートークは、大学同級生で現在はポリテクセンター北海道で活躍している溝上広泰さんをお願いしたいと思います。彼は、私が十勝サーキットで「全日本ママチャリ12時間耐久レース」に出場していたときに、仕事を終えて札幌から遠路はるばる6時間かけて応援に駆けつけてくれました（紹介を受けた下畑さんと一緒に）。よろしくお願ひします。